



Cisco Catalyst Center 3.1.x on Azure

Cisco Catalyst Center
Updated May 5, 2026

第 1 章 : 概要 Catalyst Center on Azure.....	4
シスコ Catalyst Center on Azure の概要.....	5
導入の概要.....	5
高可用性環境と Catalyst Center on Azure.....	6
Catalyst Center on Azure にアクセスする際の注意事項.....	6
第 2 章 : ARM テンプレートを使用した手動展開.....	10
ARM テンプレートを使用した手動展開.....	11
ARM テンプレートを使用した手動展開の前提条件.....	11
カスタム NTP サーバーの設定.....	12
Catalyst Center VA テンプレートを使用して ARM を展開する.....	13
Catalyst Center 展開の確認.....	19
第 3 章 : Azure マーケットプレイス を使用した手動展開.....	22
Azure マーケットプレイス を使用した手動展開.....	23
Azure マーケットプレイス を使用した手動展開の前提条件.....	23
Azure マーケットプレイス を使用して Catalyst Center VA を展開する.....	24
Catalyst Center 展開の確認.....	33
第 4 章 : バックアップと復元.....	36
バックアップと復元について.....	37
バックアップと復元（ハードウェアアプライアンスから VA）.....	37
バックアップと復元（VA から VA）.....	38
バックアップの設定.....	39
バックアップの復元.....	40
第 5 章 : 展開後の変更.....	42
（オプション）Catalyst Center VA で DNS サーバーを更新するには、Azure ポータルを使用します。	43

第

1 Catalyst Center on Azure

章

- :
- [Catalyst Center on Azure](#) [Catalyst Center on Azure](#)
 - [Catalyst Center on Azure](#)
 - [Catalyst Center on Azure](#)
 - [Catalyst Center on Azure](#) [Catalyst Center on Azure](#)

Catalyst Center on Azure

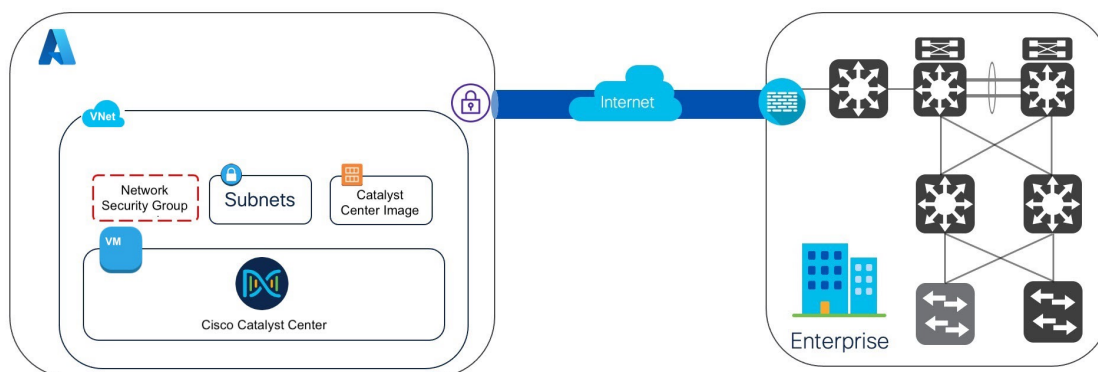
Catalyst Center を、**Azure** クラウド環境で動作する仮想アプライアンス (VA) として、**Azure** 上に定義します。これにより、クラウドからリモートでネットワークを管理しながら、ハードウェアアプライアンスのすべての機能を提供します。

Catalyst Center は、ネットワークやアプリケーションへの安全なアクセスを可能にする、強力な管理ダッシュボードおよびネットワークコントローラです。**Catalyst Center** を使用すると、ネットワーク管理の簡素化、エンドポイント間のセキュアな連携動作、ネットワーク運用コストの最適化、サービスとアプリケーションの展開によるパフォーマンスの向上、**AI/ML** インサイトを使用したユーザー体験の向上、およびオフサイトリソースへのリモートアクセスの使用が可能です。

Catalyst Center には直感的な集中管理機能が備わっているため、ご使用のネットワーク環境全体でポリシーを素早く簡単に設計、プロビジョニングして適用できます。**Catalyst Center** のユーザーインターフェイスはネットワークを隅々まで見える化し、ネットワークインサイトを活用してネットワークパフォーマンスの最適化ならびにユーザーエクスペリエンスとアプリケーションエクスペリエンスの最適化を実現します。

Microsoft Azure 上の **Catalyst Center** は、**Catalyst Center** アプライアンス展開で提供されるすべての機能を備えています。**Catalyst Center on Azure** は **Azure** クラウド環境で実行され、クラウドからネットワークを管理します。

Catalyst Center on Azure は、**Azure ExpressRoute**、**Cisco SD WAN**、コロケーションサービス、または **IPsec** トンネルを使用してネットワークに接続できます。この図を参照して、**Catalyst Center on Azure** がユーザーのネットワークにどのように接続できるかを視覚的に理解してください。



Catalyst Center on Azure でサポートされているデプロイメント方法の概要を示し、各方法の長所と短所を要約します。

Microsoft Azure に **Catalyst Center** を展開するには、次の 2 つの方法があります。

- **Azure Resource Manager (ARM)** テンプレートを使用した手動展開
- **Azure** マーケットプレイス を使用した手動展開

ARM

カスタム **ARM** テンプレートを使用して、**Azure** に **Catalyst Center** のイメージを手動で展開します。その後、**Catalyst Center** の手動設定で、**Azure** インフラストラクチャを作成し、**VPN** トンネルを確立して **Catalyst Center** **VA** を展開します。

Azure

オンラインソフトウェアストアである **Azure マーケットプレイス** を使用して、**Azure** に **Catalyst Center** のイメージを手動で展開します。その後、**Catalyst Center** の手動設定で、**Azure** インフラストラクチャを作成し、VPN トンネルを確立して **Catalyst Center VA** を展開します。

次の表を参照して、それぞれの方法のメリットとデメリットを考慮してください。

ARM テンプレートを使用した手動展開

Azure で **Catalyst Center VA** を作成するには、カスタム **ARM** ファイルが必要です。

ユーザーは、**VNet**、リソースグループ、トンネルなどの **Azure** インフラストラクチャを **Azure** アカウントで作成します。その後、ユーザーは **VPN** トンネルを確立します。

Catalyst Center を展開します。

展開時間は約 **1 時間** です。

次のいずれかを設定できます。

- バックアップ用のオンプレミス **NFS** または
- クラウドバックアップサーバー（自身で作成および管理）。

Azure ポータルを使用してモニタリングを手動で設定する必要があります。

Azure マーケットプレイス を使用した手動展開

Azure で **Catalyst Center VA** を作成するために、カスタム **ARM** ファイルは必要ありません。

Catalyst Center on Azure

単一ノード **VM HA** が **Azure** の組み込み冗長性機能を使用して、インスタンスを自動的に回復し、重要な操作中に最小限のダウンタイムに抑える方法について説明します。

Azure 可用性ゾーン（AZ）内の単一ノード **VM HA** は、**Azure** に組み込まれた冗長性機能を利用して有効になります。

Catalyst Center の **VM** インスタンスがクラッシュした場合、**Azure** は同じ可用性ゾーン内に同じ **IP** アドレスを持つ別のインスタンスを自動的に起動します。これにより、ダウンタイムが最小限に抑えられ、接続性が維持されるため、重要なネットワーク運用時における中断を低減できます。

エクスペリエンスおよび回復時間目標（**RTO**）は、従来のベアメタル **Catalyst Center** アプライアンスの電源障害シナリオに似ています。**Azure** は、**Catalyst Center** 展開のレジリエンスをさらに強化するために、ゾーン冗長 **VM**（**ZRS**）と可用性セットを提供します。

Catalyst Center on Azure

Catalyst Center GUI および **CLI** にアクセスするためのガイドラインを示します。両方のインターフェイスのセキュリティ要件や接続要件などを含んでいます。

Catalyst Center の仮想インスタンスを作成すると、**Catalyst Center** の **GUI** および **CLI** を使用してアクセスできます。

重要

Catalyst Center の GUI および CLI には、パブリックネットワークからではなく、エンタープライズネットワークを介してのみアクセスできます。セキュリティ上の理由から、パブリックインターネット上で Catalyst Center にアクセスできないようにする必要があります。

Catalyst Center GUI

Catalyst Center GUIにアクセスする際は、次の注意事項に配慮してください。

- 互換性のあるブラウザを使用してください。
互換性のあるブラウザの現在のリストについては、『[Cisco Catalyst Center Release Notes](#)』を参照してください。
- 次の形式でブラウザに Catalyst Center インスタンスの IP アドレスを入力します。
`https://ip-address`
次に例を示します。
`https://192.0.2.27`
- 初回ログイン時に次のログイン情報を使用します。
 - ユーザ名 : **admin**
 - パスワード : **P@ssword9**
- プロンプトに従って、新しい Catalyst Center アカウントを作成し、ログイン情報を設定します。

注

このパスワードは Catalyst Center のパスワード要件を満たしている必要があります。これらの要件を満たしていない場合、デプロイメントはパスワード制約エラーで失敗します。詳細については、『[Cisco Catalyst Center Installation Guide](#)』の「Plan the Deployment」章にある「Password requirements」を参照してください。

Catalyst Center CLI

Catalyst Center CLIにアクセスする際は、次の注意事項に配慮してください。

- Azure によって提供された IP アドレスとキーを使用します。

注

キーは .pem ファイルである必要があります。キーファイルが key.cer ファイル形式でダウンロードされた場合は、ファイル名を key.pem に変更する必要があります。

- Linux の chmod コマンドを使用して、key.pem ファイルのアクセス権限を手動で 400 に変更します。
次に例を示します。

```
chmod 400 key.pem
```

- **Catalyst Center** の **CLI** にアクセスするには、次の **Linux** コマンドを使用します。

```
ssh -i key.pem maglev@ip-address -p 2222
```

次に例を示します。

```
ssh -i key.pem maglev@192.0.2.27 -p 2222
```


第

2 ARM

章

- :
- ARM
 - ARM
 - NTP
 - Catalyst Center VA
 - Catalyst Center

ARM

ARM テンプレートを使用して Azure 上で Catalyst Center を手動で展開する方法について説明します。

この章では、ARM テンプレートを使用して Azure 上で Catalyst Center を手動で展開する方法を説明します。ここでは、Azure インフラストラクチャを手動で作成し、VPN トンネルを確立して、Catalyst Center を展開します。

ARM

展開を開始する前に、自身の Azure アカウント、ディスクサイズ、ネットワーク インフラストラクチャ、リージョン設定、および Catalyst Center 環境の要件をリストアップします。

ARM テンプレートを使用して Catalyst Center on Azure を展開する前に、次の Azure および Catalyst Center の要件を満たす必要があります。

Azure

Catalyst Center の ARM テンプレートをダウンロードする必要があります。シスコの営業担当者に連絡して、このファイルをリクエストしてください。

Azure

Azure は、最大 3 テラバイト (TB) のディスクサイズをサポートします。

Azure

Azure ネットワーク インフラストラクチャ要件

- ARM テンプレートは、Catalyst Center VA のみを展開します。Catalyst Center VA の展開を開始する前に、次の必要な仮想マシンリソースを手動で展開する必要があります。
 - リソース グループ
 - 仮想ネットワーク名
 - サブネット名
 - ネットワーク セキュリティ グループ
 - SSH 公開キーソース
- 企業ネットワーク内のデバイスへの接続を確立するために、Azure リソースと企業ルータまたはファイアウォールとの間にセキュアなトンネルが構築されていることを確認してください。たとえば、Catalyst Center on Azure は Azure ExpressRoute、Cisco SD-WAN、コロケーションサービス、または IPsec トンネルを使用してネットワークに接続できます。
- 企業ルータまたはファイアウォールから Azure への既存の接続については、Catalyst Center VA との間でトラフィックが双方向に送受信できるように適切なポートが開いていることを確認する必要があります。これらのポートは、ファイアウォール設定またはプロキシゲートウェイのいずれかを使用して開くことができます。ネットワーク セキュリティ グループが、必要なポートのリストと一致するように設定されていることを確認します。推奨される通信ポートの詳細については、[Cisco Catalyst Center Installation Guide](#) の「Plan the Deployment」章の「Communication ports」を参照してください。
- シスコ営業担当者によって提供される ARM テンプレートは、Catalyst Center VA との時刻同期のために、Azure クラウドの Network Time Protocol (NTP) サーバーを 168.61.215.74 として設定します。Catalyst Center VA を正常に設定するには、NTP 接続が必要です。ネットワーク セキュリティ グループおよび境界ファイアウォールで NTP 接続が許可されていることを確認します。

Azure

E32s_v4 VM サイズをサポートする Azure リージョンに Catalyst Center を展開する必要があります。

Azure

サポートされている Azure サブスクリプションタイプを使用する必要があります。Catalyst Center on Azure は、クラウドソリューションプロバイダー（CSP）プランではサポートされていません。Pay-As-You-Go、Microsoft Customer Agreement（MCA）、Enterprise Agreement（EA）などの非 CSP プランを使用する必要があります。

Catalyst Center

Catalyst Center に関する次の情報とサービスが揃っているかを確認してください。

- Azure サブネットから作成された IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ。
- エンタープライズ DNS サーバー。
- Catalyst Center の完全修飾ドメイン名（FQDN）。これは、初日の Catalyst Center の DNS 解決用です。

NTP

テキストエディタを使用して Catalyst Center ARM テンプレートでカスタム NTP サーバーを設定する方法を示します。

この手順を使用して、Catalyst Center on Azure 展開用のカスタムネットワーク時間プロトコル（NTP）サーバーを設定します。

Catalyst Center on Azure が ARM テンプレートを使用して展開された場合、時間同期用のデフォルトの NTP サーバーは、IP アドレス 168.61.215.74 の Azure クラウド NTP サーバーです。

Before you begin

NTP サーバーの設定は、システムの初期設定だけでなく、継続的な機能においても、重要な役割を果たします。そのため、カスタム NTP サーバーは到達可能であり、次の要件を満たしている必要があります。

- NTP サーバーは 4 以下の低ストラタである必要があります。
- ジッターとオフセットは、次の最大値を超えてはいけません。
 - 最大オフセット：500 ms
 - 最大ジッタ：299 ms

また、このリリースに必要なファイルをリクエストするために、シスコの営業担当者に必ず連絡してください。

-
1. ダウンロードした Catalyst Center ARM テンプレートのファイルをテキストエディタで開きます。
 2. 123 および 124 行を検索します。

 注

123 および 124 行を変更しないでください。各行が長いです。

3. 各行で NTP サーバプロパティを検索します。デフォルトの IP アドレス **168.61.215.74** の代わりに、カスタム IP アドレスを入力します。

二重引用符も残し、既存の形式をそのまま維持する必要があります。

たとえば、この図では、既存の NTP IP アドレスを必要な値に置き換える必要があります。その他の変更を加えないでください。

```
\ntp\": {\n          \"servers\": [\"168.61.215.74\"]\n
```

4. 更新されたファイルをローカルに保存します。

Catalyst Center ARM テンプレートは、カスタム NTP サーバー設定で更新されます。

Catalyst Center on Azure を ARM テンプレートを使用して展開します。この説明については、[Catalyst Center VA テンプレートを使用して ARM を展開する](#) (13ページ) を参照してください。

Catalyst Center VA ARM

カスタム ARM テンプレートと Azure ポータルを使用して、Azure 上に Catalyst Center VA を展開する手順について説明します。

カスタム ARM テンプレートを使用して Catalyst Center on Azure を手動で展開するには、次の手順を実行します。ARM のテンプレートには、すべての必須パラメータに関連する詳細情報が含まれています。

デフォルトの Azure クラウド NTP サーバーの代わりにカスタム NTP サーバーを使用する場合は、この手順を実行する前に、ARM テンプレートでカスタム NTP サーバーを設定します。この説明については、[カスタム NTP サーバーの設定](#) (12ページ) を参照してください。

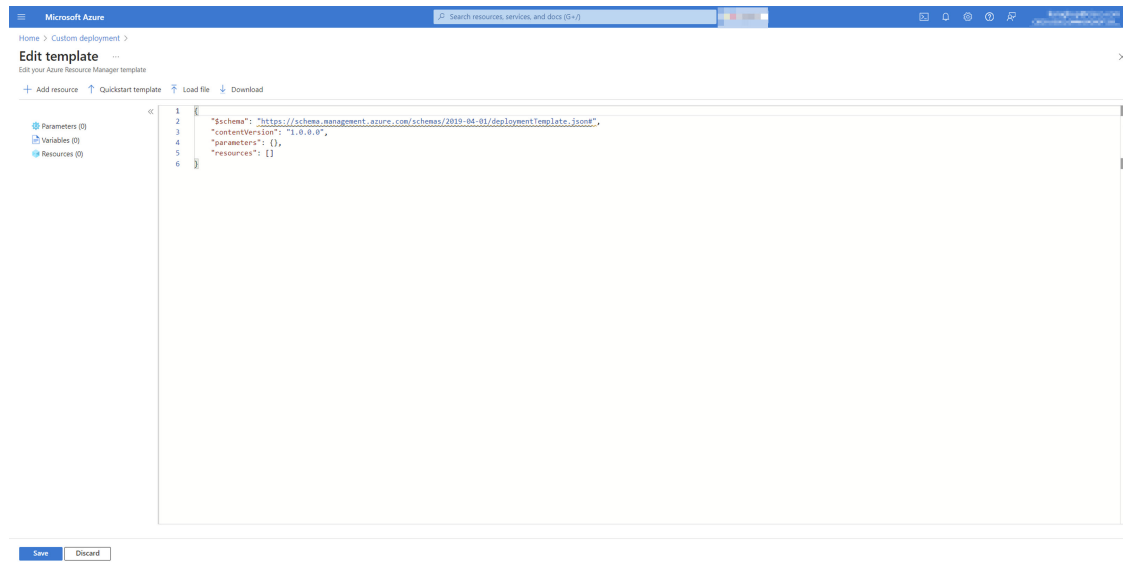
1. [Azure ポータル](#)にログインします。
2. [検索 (Search)] フィールドに、「カスタムテンプレートを展開 (Deploy a custom template)」と入力し、[Enter] を押します。
3. [カスタム展開 (Custom deployment)] ウィンドウで、[エディタで独自のテンプレートを作成 (Build your own template in the editor)] をクリックします。
4. [テンプレートの編集 (Edit template)] ウィンドウで、カスタムテンプレートを作成し、[保存 (Save)] をクリックします。

カスタムテンプレートは、次のいずれかの方法で作成できます。

- ・ テンプレートファイルの内容を開いたエディタにコピーアンドペーストするか、
- ・ [ファイルの読み込み (Load file)] をクリックして、ファイルをアップロードします。

注

カスタム ARM テンプレートでカスタム NTP サーバーを設定した場合は、この更新されたバージョンのテンプレートを指定してください。



5. [カスタム展開 (Custom deployment)] ウィンドウの [基本 (Basics)] で、Catalyst Center on Azure 展開用のテンプレートを設定します。

a. [プロジェクトの詳細 (Project details)] で、必要な詳細を入力します。

- ・ [サブスクリプション (Subscription)] ドロップダウンリストからサブスクリプションを選択します。
- ・ [リソースグループ (Resource group)] ドロップダウンリストで、リソースグループを選択します。

b. [インスタンスの詳細 (Instance details)] の下で、この表を使用して必要な詳細を入力します。

注

オンプレミスサーバーへのセキュアなアクセスを有効にするために、適切なネットワークおよびネットワーク セキュリティ グループ (NSG) の設定を選択します。このプロセスには、サブネットルーティングの確認と、Azure リソースとオンプレミスインフラストラクチャ間の接続を確立するための NSG ルールの実装が含まれます。

パラメータ

説明

Region

このドロップダウンリストから、リージョンを選択します。

パラメータ	説明
Environment Name	展開する環境名を入力します。
Virtual Network Name	Catalyst Center を展開する仮想ネットワークの名前を入力します。
Subnet Name	Catalyst Center のサブネット名を入力します。
Network Security Group Name	Catalyst Center のネットワークセキュリティグループの名前を入力します。
SSH public key source	このドロップダウンリストから、 Catalyst Center on Azure との SSH 接続を確立するために企業ネットワークが使用するキーを選択します。
Stored Keys	このドロップダウンリストから、 Catalyst Center on Azure との SSH 接続を確立するために企業ネットワークが使用するキーを選択します。
Catalyst Center Instance IP	Catalyst Center に使用しているサブネットから未使用の Catalyst Center インスタンス IP アドレスを入力します。
Catalyst Center Netmask	Catalyst Center に使用しているサブネットのネットマスクを入力します。
Catalyst Center Gateway	Catalyst Center に使用しているサブネットのゲートウェイ IP アドレスを入力します。
DNS Server	Catalyst Center に設定する企業 DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
Catalyst Center FQDN	Catalyst Center で設定する FQDN を入力します。
(オプション) Catalyst Center HTTPS Proxy	必要に応じて、企業プロキシを入力します。
(オプション) Catalyst Center HTTPS Proxy Username	必要に応じて、企業のプロキシユーザー名を入力します。
(オプション) Catalyst Center HTTPS Proxy Password	必要に応じて、企業プロキシパスワードを入力します。

パラメータ	説明
Catalyst Center Password	Azure コンソールが Catalyst Center CLI に接続するために使用する Catalyst Center パスワードを入力します。  注 パスワードは次の条件を満たす必要があります。 ・ 長さが 9 ～ 64 文字であること。 ・ 次のカテゴリのうち少なくとも 3 つを含むこと。 ・ 大文字の A ～ Z ・ 小文字の a ～ z ・ 数字 (0 ～ 9) ・ 特殊文字 (!, \$, # など) パスワードに以下を含めることはできません。 ・ ユーザー名またはユーザー名の連続する 2 文字 ・ コンテキスト固有の単語（サービス名、ユーザー名、派生語、Cisco、maglev など） ・ 4 連続の文字（特殊文字を除く） ・ タブまたは改行

[Home](#) >

Custom deployment

Deploy from a custom template

New! Deployment Stacks let you manage the lifecycle of your deployments. Try it now →

Select a template **Basics** Review + create

Template

 Customized template [↗](#)
2 resources Edit template Edit parameters Visualize

Project details

Select the subscription to manage deployed resources and costs. Use resource groups like folders to organize and manage all your resources.

Subscription * ⓘ	CC-VA-Azure	▼
Resource group * ⓘ	BrazilSouth-manual-RG	▼

[Create new](#)

Instance details

Region * ⓘ	(South America) Brazil South	✓
Environment Name * ⓘ	CC-Azure-314	✓
Virtual Network Name * ⓘ	CC-BrazilSouth-VNet	✓
Subnet Name * ⓘ	CC-BrazilSouth-subnet	✓
Network Security Group Name * ⓘ	CC-SecurityGroup-nsg	✓
SSH public key source	Use existing key stored in Azure	▼
	Ed25519 and RSA SSH formats are supported.	
Stored Keys *	CC-BrazilSouth-SSH-key	▼
Catalyst Center Instance IP * ⓘ		✓
Catalyst Center Netmask * ⓘ		✓
Catalyst Center Gateway * ⓘ		✓
DNS Server * ⓘ		✓
Catalyst Center FQDN * ⓘ	azurecc.pseudoco.com	✓
Catalyst Center HTTPS Proxy ⓘ		✓
Catalyst Center HTTPS Proxy Username ⓘ		✓
Catalyst Center HTTPS Proxy Password ⓘ		
Catalyst Center Password * ⓘ		✓

c. [次へ (Next)] または [確認して作成 (Review + Create)] をクリックします。

Azure でテンプレートの基本的な検証チェックが実行され、警告やエラーが表示されます。

6. [カスタム展開 (Custom deployment)] ウィンドウで、設定を確認し、[作成 (Create)] をクリックして設定を承認し、展開を開始します。

[Home](#) >

Custom deployment ...

Deploy from a custom template

By clicking "Create," I (a) agree to the applicable legal terms associated with the offering; (b) authorize Microsoft to charge or bill my current payment method for the fees associated the offering(s), including applicable taxes, with the same billing frequency as my Azure subscription, until I discontinue use of the offering(s); and (c) agree that, if the deployment involves 3rd party offerings, Microsoft may share my contact information and other details of such deployment with the publisher of that offering.

Microsoft assumes no responsibility for any actions performed by third-party templates and does not provide rights for third-party products or services. See the [Azure Marketplace Terms](#) for additional terms.

Deploying this template will create one or more Azure resources or Marketplace offerings. You acknowledge that you are responsible for reviewing the applicable pricing and legal terms associated with all resources and offerings deployed as part of this template. Prices and associated legal terms for any Marketplace offerings can be found in the [Azure Marketplace](#); both are subject to change at any time prior to deployment.

Neither subscription credits nor monetary commitment funds may be used to purchase non-Microsoft offerings. These purchases are billed separately.

If any Microsoft products are included in a Marketplace offering (e.g. Windows Server or SQL Server), such products are licensed by Microsoft and not by any third party.

Basics

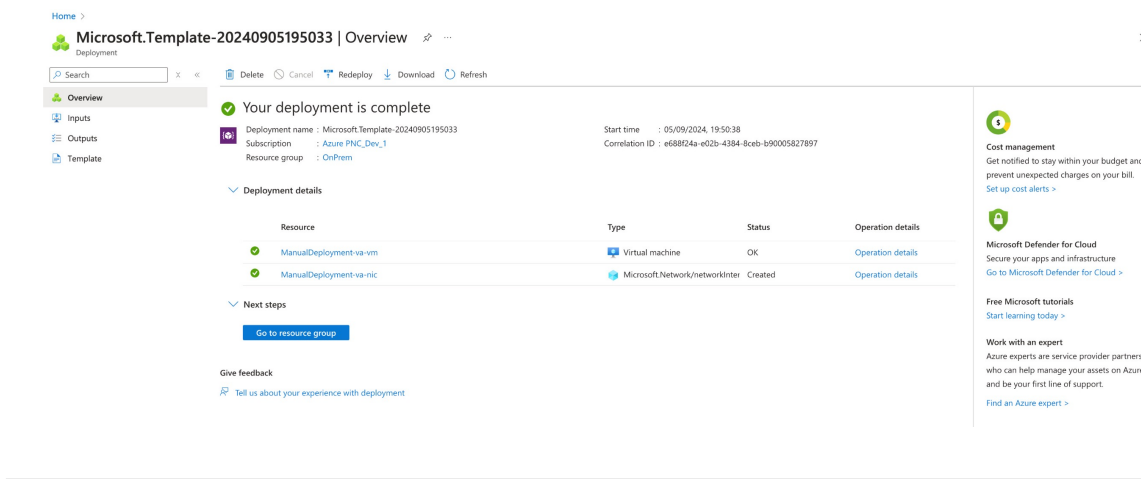
Subscription	CC-VA-Azure
Resource group	BrazilSouth-manual-RG
Region	Brazil South
Environment Name	CC-Azure-314
Virtual Network Name	CC-BrazilSouth-VNet
Subnet Name	CC-BrazilSouth-subnet
Network Security Group Name	CC-SecurityGroup-nsg
Admin Password Or Key	
Catalyst Center Instance IP	
Catalyst Center Netmask	
Catalyst Center Gateway	
DNS Server	
Catalyst Center FQDN	azurecc.pseudoco.com
Catalyst Center HTTPS Proxy	-
Catalyst Center HTTPS Proxy Username	-
Catalyst Center HTTPS Proxy Password	-
Catalyst Center Password	*****

Previous

Next

Create

展開が正常に完了すると、対応する展開されたリソースグループにリソースが表示されます。



Catalyst Center

IP アドレス設定を確認し、管理インターフェイスへのアクセスをテストすることにより、**Catalyst Center VA** が正しく機能していることを確認する手順の概要を示します。

Catalyst Center が機能していることを確認するには、この手順を使用します。

Catalyst Center on Azure を手動で展開した後、1 時間待ってから **Catalyst Center UI** にログインします。

1. **Catalyst Center VA** の IP アドレスが、それに対応する **Azure** ネットワーク インターフェイスの設定と一致していることを確認してください。
 - a. [\[Azureポータル \(Azure portal\)\]](#) にログインします。
 - b. 検索バーを使用して、仮想マシンのページに移動します。
 - c. 仮想マシンを選択します。
 - d. [\[ネットワーク \(Network\)\]](#) で、[\[ネットワーク設定 \(Network Settings\)\]](#) をクリックします。
 - e. ネットワーク インターフェイスに移動します。
 - f. **Catalyst Center VA** の IP アドレスが、それに対応する **Azure** ネットワーク インターフェイスの設定と一致していることを確認してください。
2. オプション: オンプレミスサーバーから、**Catalyst Center IP** アドレスに対して **ping** を実行します。
3. オプション: 展開が成功したら、45 ~ 50 分待ってから、ポート 2222 を使用して **Catalyst Center** との SSH 接続を確立します。
手動で **Catalyst Center** を展開したときに設定した SSH 公開キーと保存済みキーを使用します。
4. **Catalyst Center IP** アドレスとポート 443 を使用して **Catalyst Center UI** にアクセスできることを確認します。
初回ログイン時は、デフォルトの管理者ユーザー名 (**admin**) とパスワード (**P@ssword9**) を使用します。その後、新しいユーザー名とパスワードを使用して新しい管理者ユーザーを作成します。

重要

ネットワークセキュリティを確保する上で、このパスワードを変更することはきわめて重要です。特に **Azure** 上での **Catalyst Center VA** のセットアップを行った者と、その管理担当者が異なる場合は、必ず変更してください。

第

3 Azure

章

:

- [Azure](#) [仮想マシン](#) [デプロイ](#)
[ガイド](#)
- [Azure](#) [仮想マシン](#) [デプロイ](#)
[ガイド](#)
- [Azure](#) [仮想マシン](#) [デプロイ](#)
[ガイド](#) [Catalyst Center VA](#) [デプロイ](#)
- [Catalyst Center](#) [デプロイ](#)

Azure

Azure マーケットプレイス を使用して **Catalyst Center on Azure** を手動で展開する方法について説明します。

この章では、Azure マーケットプレイス を使用して **Catalyst Center on Azure** を展開する方法を説明します。ここでは、Azure インフラストラクチャを手動で作成し、VPN トンネルを確立して、**Catalyst Center** を展開します。

Azure

展開を開始する前に、Azure ディスクサイズ、ネットワーク インフラストラクチャ、リージョン設定、および **Catalyst Center** 環境の要件をリストアップします。

Azure マーケットプレイス を使用して **Catalyst Center on Azure** を展開する前に、次の Azure および **Catalyst Center** の要件を満たす必要があります。

Azure

Azure は、最大 3 テラバイト (TB) のディスクサイズをサポートします。

Azure

Azure ネットワーク インフラストラクチャ要件

- ・ **Catalyst Center VA** の展開を開始する前に、次の必要な仮想マシンリソースを手動で展開する必要があります。
 - ・ リソース グループ
 - ・ 仮想ネットワーク名
 - ・ サブネット名
 - ・ ネットワーク セキュリティ グループ
 - ・ SSH 公開キーソース
- ・ 企業ネットワーク内のデバイスへの接続を確立するために、Azure リソースと企業ルータまたはファイアウォールとの間にセキュアなトンネルが構築されていることを確認してください。たとえば、**Catalyst Center on Azure** は **Azure ExpressRoute**、**Cisco SD-WAN**、コロケーションサービス、または **IPsec** トンネルを使用してネットワークに接続できます。
- ・ 企業ルータまたはファイアウォールから Azure への既存の接続については、**Catalyst Center VA** との間でトラフィックが双方向に送受信できるように適切なポートが開いていることを確認する必要があります。これらのポートは、ファイアウォール設定またはプロキシゲートウェイのいずれかを使用して開くことができます。ネットワーク セキュリティ グループが、必要なポートのリストと一致するように設定されていることを確認します。推奨される通信ポートの詳細については、[Cisco Catalyst Center Installation Guide](#) の「Plan the Deployment」章の「Communication ports」を参照してください。

Azure

E32s_v4 VM サイズをサポートする Azure リージョンに **Catalyst Center** を展開する必要があります。

Azure

サポートされている Azure サブスクリプションタイプを使用する必要があります。**Catalyst Center on Azure** は、クラウドソリューションプロバイダー (CSP) プランではサポートされていません。Pay-As-You-Go、

Microsoft Customer Agreement (MCA)、Enterprise Agreement (EA) などの非 CSP プランを使用する必要があります。

Catalyst Center

Catalyst Center に関する次の情報とサービスが揃っているかを確認してください。

- Azure サブネットから作成された IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイ。
- エンタープライズ DNS サーバー。
- Catalyst Center の完全修飾ドメイン名 (FQDN)。これは、初日の Catalyst Center の DNS 解決用です。

Azure Catalyst Center VA

Azure ポータル、Azure マーケットプレイス、および cloud-init スクリプトファイルを使用して、Azure に Catalyst Center VA を展開する手順について説明します。

Azure マーケットプレイス を使用して Catalyst Center on Azure を手動で展開するには、この手順を使用します。

Before you begin

この展開方法の前提条件を満たしていることを確認します。詳細については、[Azure マーケットプレイス を使用した手動展開の前提条件](#) (23ページ) を参照してください。

1. [Azure ポータル](#)にログインします。
2. 新しいリソースの作成
 - a. 左側のナビゲーションペインで、[リソースの作成 (Create a resource)] をクリックします。
 - b. [マーケットプレイスの検索 (Search the Marketplace)] フィールドに、**Cisco Catalyst Center** と入力して、**Enter** を押します。
 - c. 検索結果から、[Cisco Catalyst Center Virtual Appliance - BYOL] をクリックします。
 - d. [作成 (Create)] をクリックして、デプロイメントウィザードを開始します。
3. Azure デプロイメントウィザードの [基本 (Basics)] で、デプロイメント用の Catalyst Center VA を設定します。
 - a. [プロジェクトの詳細 (Project details)] で、次の必要な詳細情報を入力します。
 - [Subscription] ドロップダウンリストからサブスクリプションを選択します。
 - [Resource group] ドロップダウンリストから、既存のリソースグループを選択するか、新しいリソースグループを作成します。
 - b. [インスタンスの詳細 (Instance details)] の下で、必要な詳細を入力します。
次の表に、必須フィールドとその説明、および入力例を示します。

フィールド	説明	例
Virtual machine name	Catalyst Center VA の一意の名前を入力します。	catalyst-center-va-eastus

フィールド	説明	例
Region	このドロップダウンリストから、リージョンを選択します。	(US)米国東部
Deploy to an Azure Extended Zone	このチェックボックスがオフになっていることを確認してください。 Catalyst Center を Azure 拡張ゾーンに展開する必要がある場合にのみ、このチェックボックスをオンにします。	–
Availability options	VM アベイラビリティ オプションを選択します。	アベイラビリティゾーン
Zone options	ゾーンの割り当て方法を指定します。	自己選択ゾーン
Availability zone	1 つまたは複数のアベイラビリティゾーンを選択してください。	ゾーン 1
 注 1 つのアベイラビリティゾーンは 1 つの VM をサポートします。複数のアベイラビリティゾーンを選択した場合は、各ゾーンの VM を選択します。		
Security type	セキュリティタイプを選択します。	標準
Image	Catalyst Center イメージを Azure マーケットプレイス で選択します。	Cisco Catalyst Center 仮想アプリケーション - x64 Gen1
VM architecture	VM アーキテクチャを示します。イメージアーキテクチャと一致する必要があります。	x64
Run with Azure Spot discount	このチェックボックスがオフになっていることを確認してください。	–
Size	VM サイズを選択します。	Standard_E32s_v4 - 32 vCPU、256 GiB (1,132.96米ドル/月)

フィールド	説明	例
ハイパネーションの有効化	このチェックボックスがオフになっていることを確認してください。	–

 注

このオプションは、選択したイメージとサイズではサポートされていません。

- c. [管理者アカウント (Administer account)] で、必要な詳細を入力します。

次の表に、必須フィールドとその説明、および入力例を示します。

フィールド	説明	例
Authentication type	SSH 公開キーログイン方法を選択します。	[SSH public key]
Username	Catalyst Center のデフォルトの管理者ユーザー名 (maglev) を入力してください。	maglev
SSH public key source	このドロップダウンリストから、Catalyst Center on Azure との SSH 接続を確立するために企業ネットワークが使用するキーを選択します。	新しいキーペアの生成

フィールド	説明	例
SSH Key Type	このドロップダウンリストから、Catalyst Center on AzureとのSSH 接続を確立するために企業ネットワークが使用するキータイプを選択します。  注 推奨されるキータイプは RSA SSH 形式です。	RSA SSH 形式
Key pair name	キーペアの一意の名前を入力します。  注 Azure は、セキュアアクセス用の SSH キーペアを自動的に生成して保存します。既存のキー名を渡すこともできます。	catalyst-center-ssh-key

d. [ディスク (Disks)] で、ディスク構成がデフォルトで設定されていることを確認します。

Azure マーケットプレイス にある **Catalyst Center** のイメージによって、ディスク構成は事前に決まります。

 注

既存のディスクを手動で変更したり、新しいディスクを追加したりしないでください。

e. [Networking] で、必要な詳細情報を入力します。

- [Virtual Network (VNet)] : 既存の仮想ネットワークを選択するか、新しい仮想ネットワークを作成します。
- [Subnet] : 仮想ネットワーク内のサブネットを選択します。
- [Public IP] : [なし (None)] を選択します。

⚠ 注意

セキュリティ上の理由から、パブリックインターネット上で **Catalyst Center VA** にアクセスできないようにする必要があります。

- ・ **[NIC Network Security Group (NSG)]** : **[詳細 (Advanced)]** を選択します。次に、既存のセキュリティグループを選択するか、新たに作成します。セキュリティグループに必要なインバウンドおよびアウトバウンドルールが含まれていることを確認します。

f. [Monitoring & Management] で、起動診断およびその他のオプションを必要に応じて有効にします。

g. [Advanced] タブの [Custom Data (cloud-init)] で、プロビジョニング中、VM ユーザーデータにクラウド init スクリプトファイルを渡します。

⚠ 注意

Azure マーケットプレイスの展開中、Azure ではプライベート IP アドレスを選択できません。仮想ネットワークで次に使用可能な IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスは、必ず cloud-init スクリプト内で使用してください。

プロキシを使用している場合は、プロキシの詳細も cloud-init スクリプトに含めます。次に例を示します。

```
#cloud-config
write_files:
  - path: /etc/cloud.json
    content: |
      {
        "mks_cloudinit_version": 1,
        "addressing_mode": "ipv4",
        "network": [
          {
            "address": "10.10.0.10",
            "netmask": "255.255.255.0",
            "gateway": "10.10.0.1",
            "routes": [],
            "name": "enterprise"
          }
        ],
        "upstream_dns_servers": ["10.0.0.2"],
        "proxy": {
          "server": "http://10.30.0.42:3128",
          "username": "proxyadmin",
          "password": "Proxypass"
        },
        "ntp": {
          "servers": ["168.61.215.74"]
        },
        "fqdn": "catalyst.center.example.com",
        "cli_password": "Public1@3"
      }
    }
```

```

- path: /usr/local/bin/wait_for_ndp_and_expand.sh
  permissions: '0755'
  content: |-
    #!/bin/sh

    LOG_FILE="/var/log/magctl-expand.log"
    echo "$(date) : Waiting 35 minutes before expanding volume" >>
"$LOG_FILE"
    sleep 2100 # 35 minutes

    echo "$(date) : Executing magctl azure expand volume" >> "$LOG_FILE"

    echo "Public1@3" | sudo -S magctl azure expand volume >> "$LOG_FILE"
2>&l

    if [ $? -eq 0 ]; then
        echo "$(date) : magctl expand completed successfully" >> "$LOG_FILE"
    else
        echo "$(date) : ERROR - magctl expand failed" >> "$LOG_FILE"
    fi

cloud_final_modules:
- ssh-authkey-fingerprints
- keys-to-console
- phone-home
- scripts-user

runcmd:
- [ "sh", "-c", "/usr/local/bin/wait_for_ndp_and_expand.sh" ]

```

プロキシを使用していない場合は、**cloud-init** スクリプトからプロキシの詳細を削除します。次に例を示します。

```

#cloud-config
write_files:
- path: /etc/cloud.json
  permissions: '0644'
  content: |-
    {
      "mks_cloudinit_version": 1,
      "addressing_mode": "ipv4",
      "network": [
        {
          "name": "enterprise",
          "gateway": "10.30.0.1",
          "address": "10.30.0.6",
          "netmask": "255.255.255.0",
          "routes": []
        }
      ],
      "upstream_dns_servers": [
        "172.20.0.5"
      ],
      "ntp": {
        "servers": [
          "168.61.215.74"
        ]
      },
      "fqdn": "catalyst.center.example.com",
      "cli_password": "P@ssword10"
    }

```

```

- path: /usr/local/bin/wait_for_ndp_and_expand.sh
  permissions: '0755'
  content: |-
    #!/bin/sh

    LOG_FILE="/var/log/magctl-expand.log"
    echo "$(date) : Waiting 35 minutes before expanding volume" >>
"$LOG_FILE"
    sleep 2100 # 35 minutes

    echo "$(date) : Executing magctl azure expand volume" >> "$LOG_FILE"

    echo "P@ssword10" | sudo -S magctl azure expand volume >> "$LOG_FILE"
2>&l

    if [ $? -eq 0 ]; then
        echo "$(date) : magctl expand completed successfully" >> "$LOG_FILE"

    else
        echo "$(date) : ERROR - magctl expand failed" >> "$LOG_FILE"
    fi

cloud_final_modules:
- ssh-authkey-fingerprints
- keys-to-console
- phone-home
- scripts-user

runcmd:
- [ "sh", "-c", "/usr/local/bin/wait_for_ndp_and_expand.sh" ]

```

Azure は、VM をプロビジョニングし、初回の起動時にその構成を自動的に適用します。

次の表に、必要な **cloud-init** スクリプトキーとその説明を示します。

キー	説明
mks_clouddinit_version	cloud-init バージョンを入力します。
addressing_mode	IP アドレスのバージョンを入力します。
ネットワーク コンフィギュレーション	
address	Catalyst Center のスタティック IP アドレスを入力します。
netmask	Catalyst Center のネットマスクを入力します。
gateway	Catalyst Center のゲートウェイアドレスを入力します。
ルート	このフィールドにはルートを入力しないでください。
name	エンタープライズ ネットワークの名前を入力します。
upstream_dns_servers	エンタープライズ ドメイン ネーム システム (DNS) サーバーのアドレスを入力します。

キー	説明
プロキシ設定	
server	(オプション) 企業の HTTPS プロキシサーバーアドレスを入力します。
username	(オプション) HTTPS プロキシユーザー名を入力します。
password	(オプション) HTTPS プロキシパスワードを入力します。
Network Time Protocol (NTP) 設定	
servers	Catalyst Center サブネットから到達可能なカスタム NTP サーバーアドレスを入力します。 デフォルトの NTP サーバーアドレス (168.61.215.74) を使用できます。
Catalyst Center の設定	
fqdn	Catalyst Center の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。

キー	説明
cli_password	Catalyst Center の CLI パスワードを入力します。  注 パスワードは次の条件を満たす必要があります。 ・ 長さが 9 ～ 64 文字であること。 ・ 次のカテゴリのうち少なくとも 3 つを含むこと。 ・ 大文字の A ～ Z ・ 小文字の a ～ z ・ 数字 (0 ～ 9) ・ 特殊文字 (!, \$, # など) パスワードに以下を含めることはできません。 ・ ユーザー名またはユーザー名の連続する 2 文字 ・ コンテキスト固有の単語 (サービス名、ユーザー名、派生語、Cisco、maglev など) ・ 4 連続の文字 (特殊文字を除く) ・ タブまたは改行

 注

- Azure マーケットプレイス における Catalyst Center のイメージは、cloud-init を使用してカスタムデータを処理します。
- ユーザーデータスクリプトの各キーは、Catalyst Center で使用される必須値を指定します。
- 設定する各キーに正しいシンタックスを使用してください。Azure は入力シンタックスを検証しません。シンタックスまたは値が無効な場合、Catalyst Center VA は起動しない可能性があります。
- スクリプト内の cli_password と echo "password" には、同じ CLI パスワードを使用します。CLI パスワードはスクリプト内で渡す必要があります。
- ボリューム拡張ログは、/var/log/magctl-expand.log にあります。
- Azure の Catalyst Center インスタンス ストレージが正常に拡張されたことを確認するには、以下を実行します。

```
xfs_quota -xc 'report -h -p /data/maglev/srv/ndp'
```

4. [確認と作成 (Review + Create)] で、設定を確認して展開します。

a. 設定の内容を確認します。

Azure が設定を検証します。

b. [作成 (Create)] をクリックして、Catalyst Center VA を展開します。

ベルのアイコンをクリックすると、[通知 (notifications)] の下で展開の進捗状況をモニターできます。

5. Catalyst Center on Azure が正常に展開されたら、[ホーム (Home)] > [仮想マシン (Virtual Machines)] に移動し、IP アドレス、ディスク設定、およびネットワーク設定を確認します。

要確認

プライベート IP アドレスが、cloud-init スクリプトで指定された IP アドレスと一致していることを確認します。IP アドレスが一致しない場合は、VM のネットワーク設定で、静的プライベート IP アドレスとしてプライベート IP アドレスを割り当てます。

Catalyst Center

IP アドレス設定を確認し、管理インターフェイスへのアクセスをテストすることにより、Catalyst Center VA が正しく機能していることを確認する手順の概要を示します。

Catalyst Center が機能していることを確認するには、この手順を使用します。

Before you begin

Catalyst Center on Azure を手動で展開した後、1 時間待ってから Catalyst Center UI にログインします。

-
1. Catalyst Center VA の IP アドレスと cloud-init パラメータが、対応する Azure ネットワーク インターフェイスでの設定と一致していることを確認してください。
 - a. [\[Azureポータル \(Azure portal\)\]](#) にログインします。
 - b. 検索バーを使用して、仮想マシンのページに移動します。
 - c. 仮想マシンを選択します。
 - d. [\[ネットワーク \(Network\)\]](#) で、[\[ネットワーク設定 \(Network Settings\)\]](#) をクリックします。
 - e. ネットワーク インターフェイスに移動します。
 - f. Catalyst Center VA の IP アドレスと cloud-init パラメータが、対応する Azure ネットワーク インターフェイスでの設定と一致していることを確認してください。
 2. オプション: オンプレミスサーバーから、Catalyst Center IP アドレスに対して ping を実行します。
 3. オプション: 展開が成功したら、45 ～ 50 分待ってから、ポート 2222 を使用して Catalyst Center との SSH 接続を確立します。

手動で Catalyst Center を展開したときに設定した SSH 公開キーと保存済みキーを使用します。
 4. Catalyst Center IP アドレスとポート 443 を使用して Catalyst Center UI にアクセスできることを確認します。

初回ログイン時は、デフォルトの管理者ユーザー名 (**admin**) とパスワード (**P@ssword9**) を使用します。その後、新しいユーザー名とパスワードを使用して新しい管理者ユーザーを作成します。

重要

ネットワークセキュリティを確保する上で、このパスワードを変更することはきわめて重要です。特に Azure 上での Catalyst Center VA のセットアップを行った者と、その管理担当者が異なる場合は、必ず変更してください。

第

4

章

:

- [Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#)
- [Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#)
[Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#) [VA](#)
- [Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#) [VA](#) [VA](#)
- [Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#)
- [Cisco Catalyst Center のインストールとアップグレード](#)

Backup and Restore 機能を使用して、システムのリカバリ用または移行用のバックアップファイルを作成する方法について説明します。

このセクションでは **Catalyst Center VA** の **Backup and Restore** 機能を使用してバックアップファイルを作成する方法について説明します。

Catalyst Center が使用不能になった場合にバックアップファイルと同じアプライアンスに復元することや、これらのファイルを使用して **Catalyst Center** を別のアプライアンスに移行することができます。

たとえば、次のことを実行できます。

- **Catalyst Center** ハードウェアアプライアンスからデータをバックアップして、**Catalyst Center VA** にデータを復元します。
- **Azure** 上の 1 つの **Catalyst Center VA** からデータをバックアップし、そのデータを **Azure** 上の別の **Catalyst Center VA** に復元します。

注意

Catalyst Center の自動化と **Assurance** のデータをバックアップする際、**NetFlow** データはバックアップされません。

Backup and Restore の詳細については、「[Cisco Catalyst Center Administrator Guide](#)」を参照してください。

VA

Catalyst Center ハードウェアアプライアンスからデータをバックアップし、**Catalyst Center VA** にデータを復元するための手順の概要です。

バックアップが **Catalyst Center 3.x** で完了した場合は、この手順を使用して、バックアップファイルを **Catalyst Center** 展開に直接復元できます。

注意

バックアップが **Catalyst Center 2.3.x** で完了した場合は、バックアップファイルを正常に復元できるように、まず **Catalyst Center** アーキテクチャをアップグレードする必要があります。この手順の代わりに、『[Cisco Catalyst Center 3.x Upgrade](#)』記事の「Scenario 9: Upgrade Catalyst Center on Azure」を実行してください。

この手順では、**Catalyst Center** ハードウェアアプライアンスからデータをバックアップして、**Catalyst Center VA** に復元する方法の概要を示します。詳細な手順については、『[Cisco Catalyst Center Administrator Guide](#)』の「**Backup and Restore**」の章を参照してください。

バックアップに使用されるハードウェアアプライアンスが 44 コア **Catalyst Center** アプライアンスであることを確認します。

1. Catalyst Center ハードウェアアプライアンスからデータをバックアップします。
バックアップサーバーが Catalyst Center から到達可能であることを確認します。

 注意

Catalyst Center 2.3.x からデータをバックアップする場合は、最初に Catalyst Center アーキテクチャをアップグレードする必要があります。この手順の代わりに、『[Cisco Catalyst Center 3.x Upgrade](#)』記事の「Scenario 9: Upgrade Catalyst Center on Azure」を実行してください。

2. Catalyst Center VA を作成します。
Catalyst Center VA が稼働していることを確認します。
3. Catalyst Center VA をステップ 1 のとおり、バックアップサーバーに接続します。
バックアップサーバーが Catalyst Center VA から到達可能であることを確認します。
4. Catalyst Center VA でバックアップサーバーを設定します。
5. データを Catalyst Center VA に復元します。

VA VA

移行元 Catalyst Center VA からデータをバックアップし、移行先 Catalyst Center VA に復元するための前提条件と手順の概要を示します。これには、ネットワークの到達可能性やクラウドバックアップサーバーのアクセス要件が含まれます。

この手順を使用して、Azure 上の 1 つの Catalyst Center VA からデータをバックアップし、そのデータを Azure 上の別の Catalyst Center VA に復元します。

この手順では、Azure 上の 1 つの（移行元）Catalyst Center VA からデータをバックアップし、それを Azure 上の別の（移行先）Catalyst Center VA に復元する方法の概要を示します。詳細な手順については、『[Cisco Catalyst Center Administrator Guide](#)』の「Backup and Restore」の章を確認してください。

Before you begin

次の前提条件を満たしていることを確認してください。

- Azure に Azure Resource Manager (ARM) テンプレートを使用して 2 つの Catalyst Center VA が正常に展開されています。
- 両方の Catalyst Center VA が稼働中です。
- バックアップサーバーは、移行元 Catalyst Center VA および移行先 Catalyst Center VA から到達可能です。

1. ソース Catalyst Center VA からバックアップサーバーにデータをバックアップします。
2. データの復元先のターゲット Catalyst Center VA を起動します。
3. ターゲット Catalyst Center VA をバックアップサーバーに接続します。

4. ターゲット **Catalyst Center VA** でバックアップサーバーを設定します。
5. ターゲット **Catalyst Center VA** にデータを復元します。

Azure 上の移行元 **Catalyst Center VA** からのデータが、Azure 上の移行先 **Catalyst Center VA** に正常に復元されています。

Catalyst Center GUI を使用した **NFS** バックアップサーバーの設定、暗号化パスフレーズを使用したマウントパスの確立、および自動バックアップのスケジュール設定について、手順を追って説明しています。

Catalyst Center のバックアップを設定するには、次の手順を実行します。

-
1. **Catalyst Center** にログインします。
 - a) ブラウザに **https://server-ip** と入力します。
server-ip は、**Catalyst Center** をインストールしたサーバーの IP アドレス（またはホスト名）です。
 - b) **Catalyst Center** のユーザ名およびパスワードを入力します。
 2. メインメニューから次を選択します。 **[System] > [Backup & Restore]** の順に選択します。
 3. **[Configure Settings]** をクリックします。
 4. **NFS** の設定を追加または更新する場合は、**[NFSの追加 (Add NFS)]** をクリックします。
 それ以外の場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
 5. **[NFSの追加 (Add NFS)]** エリアで、次の手順を実行します。
 - a) **[NFSサーバー (NFS Server)]** フィールドに、バックアップサーバーの IP アドレスを入力します。
 - b) **[宛先フォルダ (Destination Folder)]** フィールドに **/var/nfsShare** と入力します。
 - c) **[NFSバージョン (NFS Version)]** ドロップダウンリストから、**[NFS 4]** を選択します。
 - d) **[Port]** フィールドに、「**2049**」と入力します。
 - e) **[ポートマッパー (Port Mapper)]** フィールドで、デフォルト値 **[111]** を受け入れます。
 - f) **[Save]** をクリックします。
 6. **[警告 (Warning)]** ダイアログボックスで、**[続行 (Proceed)]** をクリックします。
 7. **NFS** 設定が正しいことを確認します。
 - a) **[NFSリストの表示 (View NFS List)]** をクリックします。
 - b) **[NFSリスト (NFS List)]** の情報を確認します。
 - c) **[NFSリスト (NFS List)]** を閉じます。
 8. 作成した **NFS** の **NFS** パスをマウントします。
 - a) **[マウントパス (Mount Path)]** ドロップダウンリストから、設定した **NFS** のマウントパスを選択します。
 - b) **[暗号化パスフレーズ (Encryption Passphrase)]** と **[パスフレーズの確認 (Confirm Passphrase)]** フィールドに、パスフレーズを入力します。
 このパスフレーズは、バックアップを復元するときに使用されます。
 - c) **[Submit]** をクリックします。
 9. バックアップをスケジュールします。
 - a) メインメニューから次を選択します。 **[設定 (Settings)] > [バックアップと復元 (Backup & Restore)]**。

- b) [スケジュール済みバックアップ (Scheduled Backup)] をクリックします。
 - c) [スケジュール済みバックアップ (Scheduled Backup)] ペインで、必要に応じてバックアップのオプションを設定します。
 - d) [Save] をクリックします。
-

Catalyst Center GUI を使用して Catalyst Center VA にバックアップを復元する手順について説明します。

Catalyst Center のバックアップを復元するには、次の手順を実行します。

1. Catalyst Center にログインします。
 - a) ブラウザに **https://server-ip** と入力します。
server-ip は、Catalyst Center をインストールしたサーバーの IP アドレス（またはホスト名）です。
 - b) Catalyst Center のユーザ名およびパスワードを入力します。
 2. メインメニューから次を選択します。 **[System] > [Backup & Restore]** の順に選択します。
 3. バックアップの **[アクション (Actions)]** 列で、**[...]** をクリックし、**[復元 (Restore)]** を選択します。
-

第

5

章

:

- [Cisco Catalyst Center VA](#) [DNS](#) [Azure](#)

Catalyst Center VA DNS

Azure

Azure ポータルを使用して Catalyst Center VA に設定されている DNS サーバーの IP アドレスを更新するための、前提条件と手順を提供します。

Catalyst Center VA に設定されている DNS サーバーの IP アドレスを更新するには、この手順を使用します。

Cisco TAC から同意トークンを取得して完全なシェルアクセスを取得します。

1. Azure ポータルにログインします。
2. [EC2] > [Instances] の順に選択します。検索バーを使用して、[Resource groups] サービスに移動します。
3. [Virtual Machines] をクリックします。
4. [Help] [Serial Console] に移動し、[Connect] をクリックします。
5. Maglev コンソールで、DNS サーバーの IP アドレスを優先 IP アドレスに更新します。
 - a. ログインプロンプトで **maglev** と入力します。
 - b. [Password] プロンプトには、展開方法を問わず、初期展開時に設定したパスワードを入力します。
 - c. Cisco TAC から取得した同意トークンを使用して、シェルへのフルアクセスを取得します。

```
$ _shell -v consent-token
```

次に例を示します。

```
_shell -v n1+hPAAAAQ000AQAAAAABAgAEAAAAAAMBYkk2bmhXcWl4OGtqUXoya
09UTX1zM252UnNlUnFwTEFEQVQvejJjQm9kNX1oN2thSFk3MzZBek9CMEJRUIZad2QNCkhPNVZMNjhMUXMyb0h
1OXQ2eWlTR01yT1hwZkRPSmNuc1c2QUJ5ZGtVZ0N2OU1mMXZtTC90em1MNldWcVdjY2gNCkh3eEd5MytZWmRVUTN
kek1xOWNiWi9rLzVlTkozQ2RrYy9SMXEya2NOV09uMEDvZE1lc1lZN01ENjZvVk5zZlMNCktseHZxTi9tVXF0cWl
vaG9NZFY4SnVOY3NBcXkxQkZOMzZHdS9XQ2N4S2tpdlNUV1VOTVVRXU1TjVRUDl6d1YnYmYyWW1ZdUFnSGNOcnV
veUhoTzZYYjRIWnJWNDdxSG5qR0REUjV3TE90bnNXalpBL2tsRzNzN01Ia1ZaY0VzMVENCkVoc3FZUGU5Z2ZoTWF
6YXVKRmtxVmc9PQ==
```

- d. 端末を色で表示するように設定します。

```
export TERM=xterm
```

- e. **sudo maglev-config update** コマンドを実行します。

設定ウィザードでは、『[Cisco Catalyst Center Appliance Installation Guide](#)』[英語]の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」に示される一連の画面のセッションが簡略化されています。

DNS サーバーの IP アドレス設定が表示されたら、優先アドレスに変更します。画面ごとに変更を終えた後は、[next>>]を選択して設定ウィザードを続行します。設定プロセスの最後に、設定ウィザードが変更を適用できる状態になったことを示すメッセージが表示されます。

- f. 使用可能なオプションを使用して、変更を確認および検証します。
 - ・ [proceed>>] : 変更を保存して適用します。
 - ・ [<<back] : 変更を確認して検証します。
 - ・ [<cancel] : 変更を破棄して設定ウィザードを終了します。

g. [proceed>>] をクリックして、変更を保存して適用します。

設定プロセスの最後に、「**CONFIGURATION SUCCEEDED**」というメッセージが表示されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。